MACF 礼拝説教要旨
2023 年 4 月 30 日

ルカによる福音書

金持ちとラザロ

19「ある金持ちがいた。いつも紫の衣や柔らかい麻布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。
20 この金持ちの門前に、ラザロというできものだらけの貧しい人が横たわり、
21 その食卓から落ちる物で腹を満たしたいものだと思っていた。犬もやって来ては、そのできものをなめた。
22 やがて、この貧しい人は死んで、天使たちによって宴席にいるアブラハムのすぐそばに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。

23 そして、金持ちは陰府でさいなまれながら目を上げると、宴席でアブラハムとそのすぐそばにいるラザロとが、はるかかなたに見えた。
24 そこで、大声で言った。『父アブラハムよ、わたしを憐れんでください。ラザロをよこして、指先を水に浸し、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの炎の中でもだえ苦しんでいます。』
25 しかし、アブラハムは言った。『子よ、思い出してみるがよい。お前は生きている間に良いものをもらっていたが、ラザロは反対に悪いものをもらっていた。今は、ここで彼は慰められ、お前はもだえ苦しむのだ。
26 そればかりか、わたしたちとお前たちの間には大きな淵があって、ここからお前たちの方へ渡ろうとしてもできないし、そこからわたしたちの方に越えて来ることもできない。』
27 金持ちは言った。『父よ、ではお願いです。わたしの父親の家にラザロを遣わしてください。
28 わたしには兄弟が五人います。あの者たちまで、こんな苦しい場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』
29 しかし、アブラハムは言った。『お前の兄弟たちにはモーセと預言者がいる。彼らに耳を傾けるがよい。』
30 金持ちは言った。『いいえ、父アブラハムよ、もし、死んだ者の中からだれかが兄弟のところに行ってやれば、悔い改めるでしょう。』
31 アブラハムは言った。『もし、モーセと預言者に耳を傾けないのなら、たとえ死者の中から生き返る者があっても、その言うことを聞き入れはしないだろう。』」
＊＊＊＊
1）このお金持ちの考えていた幸せとは
多分、豊かに物を持ち、優雅な生活をすることだったのではないかと思います。
でも、それ自体が大きな問題だったかというと、そうでもなさそうです。

2）ラザロという人の状況

このラザロ、という名前ですが、エリエゼルという名前を短くしたもので、「神が助ける人」という意味です。
でも、それにしては現実的な生活では苦労の多い人だったと思います。
金持ちの家の門のところに運んでもらい、置いてもらってかろうじて
行きていた人ですし、友達は数匹のワンちゃんだけという感じです。
体調不良は常態化し、栄養不良も常態化していたと思います。

３）死の向こう側で
この二人に大きな差が生まれるというか、まるで逆転現象がおこります。
ラザロはアブラハムのそばに、金持ちは炎に苦しむという描写がここにあります。
こういう話は、この淵と炎があることでとてもわかりやすくなります。
何故、ラザロと金持ちの間に差ができてしまったのでしょうか？
金持ちだったからでしょうか。
それともラザロを無視したからでしょうか？
そんなことはないと思います。このお金持ちの人はラザロの名前を知っていますし
もし、本当に意地の悪い人だったら家の前からラザロを追い出していたと思います。
もしかしたら心根の優しい金持ちだったかもしれません。

問題は、この会話の中に明らかになってきます。
27 金持ちは言った。『父よ、ではお願いです。わたしの父親の家にラザロを遣わしてください。
28 わたしには兄弟が五人います。あの者たちまで、こんな苦しい場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』
29 しかし、アブラハムは言った。『お前の兄弟たちにはモーセと預言者がいる。彼らに耳を傾けるがよい。』
30 金持ちは言った。『いいえ、父アブラハムよ、もし、死んだ者の中からだれかが兄弟のところに行ってやれば、悔い改めるでしょう。』
31 アブラハムは言った。『もし、モーセと預言者に耳を傾けないのなら、たとえ死者の中から生き返る者があっても、その言うことを聞き入れはしないだろう。』」

この金持ちは兄弟思いです。心配して、他の兄弟がここに来なくても良いようにラザロを遣わして説得するようにしてくださいとアブラハムに懇願しています。
でも、それについては「彼らにはモーセと預言者があるではないか」という返事が
返ってきます。
モーセと預言者というのは「旧約聖書」のことです。わたしたちにとっては「聖書の言葉がある」というのと同じでしょう。
問題は「聞くこと」だけでなく、興味を持つだけでなく「悔い改め」が鍵のようです。

悔い改めとは方向転換です。

４）神さまに心を向けながら生きる。
ここに語られている悔い改めとは「神さまに生かされていることへの自覚」
「神さまの助けを意識しながら生きる」という姿勢への促しです。
おそらく、ラザロは生きることに辛さを感じていたと思いますが
それでも心のなかで「神さまに助けられて今日を生きている」という
自覚を持っていたのだと思います。。
そういう自覚はお金があってもなくても、どこにいても、心のなかに
神さまが促してくださる意識です。

さて、あなたはどうでしょう。
今日、神さまに生かされ、助けられていることを意識しながら
礼拝をささげていますか。
その部分は、きっと悔い改めの第一歩なのかもしれません。
ゆっくりこの箇所を読み返してみてください。

「わたしたちはラザロ（神が助けてくれる人）なのだということを
感謝しつつ生きていきたいですね。
同時に、そのことを更に深く知るために「モーセと預言者に耳を傾けながら」
生きたいですね。
礼拝が、まさにそれを促す時間となりますように。

＊＊＊＊

MACF 礼拝映像はこちらです。
https://youtu.be/Ws94EfbhxS4

＊＊
5 月 5 日（金）にはバイブルワークショップ＆メディテーションが Zoom で
開催されます。ぜひ、ご参加ください。
今回の箇所は
ヨハネによる福音書 14 章 15 節から 21 節です。